

平成30年

# 区民委員会会議録

とき 平成30年12月11日

品川区議会

平成30年 品川区議会区民委員会

日 時 平成30年12月11日（火） 午前10時00分～午後2時09分

場 所 品川区議会 議会棟5階 第3委員会室

|      |           |              |
|------|-----------|--------------|
| 出席委員 | 委員長 本多健信君 | 副委員長 浅野ひろゆき君 |
|      | 委員 渡辺裕一君  | 委員 のだて稔史君    |
|      | 委員 おくの晋治君 | 委員 大倉たかひろ君   |
|      | 委員 藤原正則君  | 委員 田中さやか君    |

|       |              |                     |
|-------|--------------|---------------------|
| 出席説明員 | 堀越地域振興部長     | 伊崎地域活動課長            |
|       | 遠藤協働・国際担当課長  | 菅生活安全担当課長           |
|       | 提坂戸籍住民課長     | 山崎商業・ものづくり課長        |
|       | 安藤文化スポーツ振興部長 | 立川文化観光課長            |
|       | 池田スポーツ推進課長   | 辻オリンピック・パラリンピック準備課長 |

○午前10時00分開会

**○本多委員長**

ただいまより区民委員会を開会いたします。

本日は、お手元に配付の審査・調査予定表のとおり、視察、所管事務調査およびその他と進めてまいります。

本日も効率的な委員会運営に、ご協力をよろしくお願いいたします。

---

1 視察

**○本多委員長**

予定表1の視察を行います。

これより、本日の所管事務調査「都市型観光」の推進に関連して、今年10月からスタートしましたメガイルミネーション事業について、大井競馬場へ視察に参ります。本事業は区としましても都市型観光を推進する上で貴重な観光資源の1つとして、連携して育てていきたいと考えているものです。詳しい説明につきましては、現地において職員の方をお願いしてありますので、委員および視察に同行される理事者は、第三庁舎2階駐車場に駐車中のマイクロバスにご乗車願います。放送にてご案内いたします。

それでは、会議の運営上、暫時休憩いたします。

○午前10時01分休憩

[視察場所：大井競馬場]

○午後 1時00分再開

**○本多委員長**

休憩前に引き続き、区民委員会を再開いたします。

---

2 所管事務調査

○都市型観光について

**○本多委員長**

それでは、予定表2の所管事務調査を議題に供します。

本日は、都市型観光についてというテーマで、他区の観光施策の取組み状況についてご説明いただいた上で、午前中の視察なども踏まえながら、品川区の今後の取組みの方向性などについて活発に議論ができればと考えております。

それでは、本件につきまして、理事者からご説明願います。

**○立川文化観光課長**

それでは、所管事務調査、都市型観光について、本日は各区の観光関係施策の取組み状況について簡潔にご説明いたします。

まず千代田区ですが、「観光を通じてさまざまな人々が誇りを持てるまちづくりを進め、住みやすく、働きやすく、交流しやすいまちを目指す」としております。キーワードとしては、「共生」、「交流と創造」、「癒しと健康」また、テーマとしては、歴史・文化と未来、まち歩き、産業・観光、地方との交流をテーマとしておきまして、観光資源の発掘・磨き上げ、創出に取り組むとしております。多様な主体を結びつける民間主導の観光協会の役割が重要であるとしております。主な施策・取組みについてはご覧のと

おりです。

中央区でございます。銀座を抱える区ですが、「歴史文化に根ざし築き上げられた現代都市の魅力そのものを、住む人と訪れる人がともに楽しむ都市観光」をコンセプトに掲げ、より一層の観光振興を図る新しい観光モデルの実現を目指すとしています。施策内容についてはご覧のとおりです。

港区ですが、訪れたいくなるまち、憧れの港区。ひと・まち・文化の交流を生み出す価値ある都市観光の創造。各地区の特性や観光関連産業。大使館や全国各地域、マスメディアなどと連携した観光振興を掲げております。

新宿区でございます。文化・芸術・創造のまちづくり、産業振興策を通じて創造的な人々や企業が集まる場をつくっていく。主な戦略としまして、文化と産業等を融合する仕組みをつくり、産業や観光の振興により、創造的な人々や企業の交流する場をつくるというものです。特徴的なものとして、観光バス駐車対策というものがあまして、20台ぐらいとめられる駐車場を公費で運営しています。

文京区ですが、文京区の観光ビジョンを平成21年に策定し、実施にあたっては平成28年改訂の文京区アカデミー推進計画において、3つの分野別目標、観光資源の発掘・保護を通じた区の魅力の創出。また、情報収集・活用による来訪の促進。また、持続可能な観光を支える仕組みづくりを選定しています。

台東区ですけれども、浅草や近くにはスカイツリーもできましたけれども、台東区観光の目標とする姿を「本物に会えるまち」としまして、観光の持続的発展を理念に、全ての観光客が満足し、区民が愛着や誇りを持てる観光地であることの実現を目指す。多面的な魅力要素に光を当て、地域一帯で観光に取り組むとしています。台東区については、浅草文化観光センターという、8階建ての観光に特化したセンターをつくっています。

墨田区ですが、スカイツリーを活用して、「住んでよく、訪れてよい、国際観光都市すみだ」を目標に掲げておりまして、内容としましては、「ビジターズ・インダストリー」、これは観光の視点を生かした幅広い産業群の創設、それから、愛着と誇りの持てる我がまちすみだ、また、総力を上げて観光まちづくりに取り組んでいます。

江東区ですが、観光推進のコンセプトを「発見・つなぐ・みんなでつくる」に定め、5項目の基本施策としましては、「魅せる・伝える・交わる・支える・進める」として官民連携協働で推進するというものです。

品川区につきましては、これまで説明してきたとおりですが、「繰り返し訪れて楽しいまち しながわ」。「日常の生活環境に着目した官民連携による都市型観光の推進」をコンセプトにしております。

目黒区については、3つの方向性をもとにさまざまな施策を実行していきまして、まず、地域資源を育む、また、おもてなしのまちをつくる、それから、魅力ある情報の発信をしていくとしています。国際交流分野や芸術文化分野との連携など、おもてなし、ホスピタリティに配慮しながら取り組んでいくとしております。

大田区については、こだわりを持った国際的な生活いきいき観光都市の展開、近きものと遠きものも引きつける豊かな楽しみと輝きの展開。また、集散往来・快適回遊の展開です。主な施策としては、訪日外国人等受入環境整備、観光協会補助、産業を生かした観光事業推進です。

世田谷区ですが、観光資源の発見・活用による新たな魅力の創造、さまざまな媒体を活用した効果的な魅力の発信、まちなか観光の推進です。

渋谷区につきましては、特にプラン等は作成していないということです。

中野区につきましては、平成26年度に、中野区認定観光資源として区内の地域資源、旧跡、建築物、文化財、商店街、特産品、イベントなど、有形無形の資源を129件認定し、平成28年度に調査を行い、最近では認定観光資源をどのように活用するかを検討しているそうです。

杉並区については、「魅力的でにぎわいがあり、また行ってみたいくなるまち」で、主な取組みとしては、杉並らしさを生かした集客事業の推進、アニメを活用した事業の推進とアニメ産業の支援です。

豊島区ですが、目標としましては「観光創造都市・としま」としまして、方針としては、魅力の創出、情報発信、システム形成、基盤整備でして、豊島区も漫画・アニメの活用に力を入れています。

北区におきましては、区民・事業者・行政が一体となって推進するとしております。

荒川区につきましては、特徴的なところですが、「俳句のまち あらかわ」ということで、俳句を活用した事業を展開しているところです。また、商品開発支援をはじめ、俳句関連のフォトコンテストや各種俳句関連イベントとして区内外に広くPRし、区外からの誘客を促すということです。

板橋区ですけれども、「歴史が結ぶ 懐かしさと新しさに出会えるまち」を観光コンセプトとして掲げております。

練馬区につきましては、地域文化や資源などを体感してもらう取組みを、練馬ならではの観光として位置づけ、仕組みづくりを行っております。区民や事業者同士の交流・連携を進めることで、新たなビジネスやまちのにぎわい創出と区内経済の活性化を図っています。

足立区につきましては、従前は観光交流課が観光基本計画を策定して実施していたのですが、観光交流課自体を法人化しまして、観光事業全てを一般財団法人足立区観光交流協会が所管するようになったので、個別計画については、足立区地域経済活性化基本計画の中で観光振興施策を包含するというでやっております。

葛飾区につきましては、区の特徴・よさを生かした観光資源の活用や、地域の活力を生み出す産業の活性化に取り組むところでして、特徴的なところは、「寅さん記念館」「山田洋二ミュージアム」など、新たなリピーターを獲得するため定期的なリニューアルを実施しております。また、葛飾区ゆかりのキャラクターである「寅さん」「こち亀」「キャプテン翼」を生かした観光振興や観光ルートの開発などにより、区の観光地としての魅力を高めていくことを力を入れてやっております。

江戸川区についてはこの表にないのですが、観光関連施策については、産業や文化関係、広報関係それぞれの所管ができることを自主的に進めるということとして、専門の所管は設けていないそうです。

#### ○本多委員長

説明が終わりました。

ご質疑・ご意見等ございましたら、ご発言願います。

#### ○渡辺委員

これは多分明確な正解がない分野だと思っています。昨日の案件のコンサートのような形で、やはり品川区だけではなくて、まだまだどこも道半ばというか、まだ初期段階だとすれば、「チャレンジ」というのがキーワードかなと思っています。いいかげんではだめだとかたい見方もあるのですが、でも、チャレンジなくして成功はないのです。だから、それを大前提に行政も事業計画の中に社会実験であるとか、チャレンジというのは冒頭で打ち出すべきぐらいなものとも考えますが、その辺のお考え。

それと、そうやっていく中で第一歩が踏み出せば、2回目あるいは2年目・3年目に改善していくのが世の習いだと思うのです。最初からパーフェクトを求める事業はおそらく民間も含めて易しいこと

ではないと思うのです。だとすれば中長期な計画というか、短期が1年スパンであれば、3年・5年ぐらいの見通しを、この行政の単年度予算とはまた違ったもの見方が必要だと思うのです。観光とは、まちづくりとは、そんなに一朝一夕ではないですよ。優先順位を高くしてつけた方がいいのではないかと考えています。その辺のお考えを2つ目に質問。

あと3つ目に、行政の役割です。昨日の報告の中であったように、最近すごくいい傾向としたら、地域が実行委員会形式で横の連携をされているケースが多い。町会単体、商店街だけではなくて、そこが軸となってサークルあるいは趣味の団体、スポーツ団体などと一緒にやっているケースは、ものすごく活気を感じるのです。行政は目立たないようにしながら支えている、そういうイベントが多分最近の成功事例で多いのではないかと考えているのですが、その辺の行政の立ち位置についてのこだわりはどのようにお持ちなのか、その辺を教えてください。

### ○立川文化観光課長

3点ご質問をいただきました。施策におけるチャレンジですけれども、委員ご指摘のとおり正解がない施策の分野ですので、区としましては、まち場の方のご意見であるとか、また、学識経験者の方のご意見、あと東京都なり国の施策の方向性も当然考慮に入れなければならないと考えておりますので、そういった意味で、区の独自性とチャレンジが後々つながってくると思いますので、失敗を恐れずに、この観光や文化芸術、こういった分野についてはさまざまチャレンジしていくことが大切だと思います。

また、中長期的な観点でというお話ですけれども、例えば、旧東海道品川宿ですけれども、こちらは観光資源として現状ではかなり知名度も高くなっていると思うのですけれども、始めたころ30年以上前だと思えるのですけれども、そのころはやはりまち場の方は熱意を持って少しずつ取り組んで、それに対して行政がいかに支援できるかということやってきたと。三十数年たつて今の姿がありますので、そういった意味では、いわゆる観光資源であるとかまちの魅力は、時間をかけて発見して磨き上げてやっていくというふうに行政としても考えております。

また、行政の立ち位置ですけれども、一番行政が重要だなというのは、さまざまな主体を結びつける役割、そこは信頼していただけていると自負しておりますので、行政としましてはさまざまな団体が、団体同士ではなかなか交流が進まないところを、それをまずくつつける場を設けるとか、そういったさまざまな取組みに対して側面からいかに支援できるかという、その1点は外さないように、今後も施策を展開していきたいと考えております。

### ○渡辺委員

そのとおりだと思いますし、次にかかわっていく中で、そこを土台にしたときに、すごく事業数が多い分野だと思うのです。観光にしる文化・スポーツにしる、オリンピック・パラリンピックも含めて、また、商業・ものづくりあたりもそうなのですけれども、例えば、区の役割のところをいくと、1セクションでは、制度的には支援できるのですが、一緒には時間をともにできないと思うのです、ほかのこともいくらかあるので、イベント1つとってみてもそうですし、平日・休日含めて準備も、それはそれでいいと思うのです。もう一つ行政の役割の中で、地域ができないことは何だろうと考えたときに、1つ分析というのをお題にしたいと思うのです。となると、例えば、イベント1つとってみても行事でもいいのですが、やりましたと、もちろん税の投入もあるときに、では効果検証どうだろうとこれはよく言われますよね。これは一つの基準や評価があるべきだと思うのです。それはもちろんよい評価があれば地域の方々も意気に感じるし。課題は課題であれば、直せばプラスになるというのも地域の共感が得られると。行政としても当然ながらその役割を担っていくといったときに、では何でもかんでも行政か

とは思えないのです。そういう意味では、そういう特殊なというか、プロジェクトチーム的な第三者とかをまぜて、それは多分ほかのことに応用できるのです。そこでの分析とか得た情報はほかにも役立てられる。これは多分地域ではできないと思うのです。品川区も広いですから、多くのイベントやっています、近隣に同じ人がかぶればノウハウは共有できるのですが、もっと全区的にノウハウだとかおもしろみのある企画をほかで生かすのが、多分、行政が役割として求められている、「つなぐ役割」、情報センターであり総合マネジメントの部分だと思うのですが、行政マンだけがやれるかと言うと、多分物理的にとか人手的にも難しいと思うので、こんな制度を研究されたらどうかなというのを踏まえて伺います。

#### ○立川文化観光課長

行政の役割として、調査や分析などについてやるべきではないかというご意見を伺いました。確かに、実際、国土交通省の観光庁や東京都の産業労働局に観光部もごぞいます。そちらでは調査また研究を主に取り組んでおります。区が単体でさまざま調査するのは難しいと思いますけれども、行政がかかわってコーディネートしていくという視点から申しますと、職員一人ひとりにはそんなノウハウはもともとないと思いますけれども、民間でご活躍されているコーディネーターとかアドバイザー的な方は何人かいらっしゃいます。定評のある方は全国各地の自治体のアドバイスをしていますので、観光や文化芸術・スポーツといった分野でも施策についてご意見、またまち場のいろいろな課題を解決するためにご意見をいただけるような仕組みを今後検討・研究していく必要があるのかなと考えております。

#### ○渡辺委員

伝わり方というのですかね、今のような観光の情報、拠点であり、取組み、行事、イベント、伝わり方のところで、リアルタイムがいいと思うのです。例えば、歴史的な背景だとか、かたくなってしまう部分もあるけれども、導入はやわらかく緩いぐらいがいいと思うのです。その手段として行政発信がいいかどうかは別なのですけれども、行政がやるとおもしろいと思うのはランキングとかコンテストの部分、これは多分、課題はあるけれども、それなりの効果があるような気がします、遊び心的な。例えば、ランキングで言えば、上だ下だをつけてはいけないと普通なります。でも、受け手からしたら、1位は何だろうとか上位の方に関心が行くではないですか。それはときによってテーマによって違っていいと思いますし。

もう一つコンテストの例で言うと批判も全国的にあると思う。例えば、「ミスコン」という言葉があったときに、これは容姿だけをどうこう言うから角が立つので、選考基準に意味があればおもしろいものになるのではないかと。容姿に限らず、例えば笑顔が素敵だとか、好感度、今は動画の時代ですから、「ようこそ品川へ」というテーマで30秒コメントしてくださいとか、何か感じいいねとか、そういうのを総合的に判断する「ミス品川」でもいいし、「何とか品川」でもいいのです。そういう方が案内してくれるツアーとか、あるいは観光大使の要素があるとか。上だ下だという嫌らしい言い方ではなくて、コンテスト、あるいはランキングみたいなやわらかさと、これも発信力ですね、注目を引くという意味で手段としてどうかなと。それは地域がやればいいではないかと思うけれども、全区的に捉えたときに行政が選ぶというのをあえて強調したらおもしろいのではないかと。先ほど信用という意味で、品川区のお墨付きがついているランキングだとか、こういう発想を行政がリーダーシップをとったらおもしろいなど、これはそのままが実現するとは思っていないのですが、では行政はさすがに無理だから、観光協会と連携しようとか、やり方もあるし、あとはローカルランキング、全区的なランキングがあれば、戸越だとか、北品川だとかも含めて、ローカルランキングの制度をつくっていく、選ぶのは地域だとか区

民の方。何かそういう制度設計をやったら、観光という難しいテーマに対してわかりやすさの手段としてどうかなと思いますが、答弁というか感想で構いませんのでよろしくお願いします。

#### ○立川文化観光課長

ランキングとか、スポーツの分野で当たり前のように、何とか大会みたいなのがあります。ただ、文化芸術・観光におきましては、いわゆる優勝とか準優勝というのとは遠い世界かなとも感じております。実際いろいろホームページを検索してみますと、いわゆる東京の観光名所のランキングとか出てきます。それで、区内のコンテンツというか資源につきましては、しながわ水族館がやはり高いところに来ていたり、池田山公園や戸越公園など、外からお見えになる方にとっては、ああそうかという感想を抱く。遊び心を持って行政がその辺を強調して、「しながわみやげ」というのを観光協会の方でやっているところでございまして、皆さんが応募されるわけではないのですけれども、誤解を生まないように行政としてはいろいろ表現していかなければいけないというのがまずあります。ただ、遊び心は、タイトルとかそういったもので強調できると思いますので、事業によってはその辺を発信力として活用してやっていくというのは、大変貴重なご意見だと思っております。

#### ○渡辺委員

最後に貴重とっていただけてうれしい限りですが、やり方はほかにもあるのですけれども、伝わるかどうか。正しいことを言っても難しすぎて伝わらなかつたら意味がないし、人と人なので、伝わり方の手段としてやっていったらどうかと思います。というのは、先ほど上か下かの話がありましたけれども、決してそうではなくていいことを評価する、褒めるではなく称えるという意味で。例えば、ベスト3でとどめておけば、上位3と言ったらほかにも無数にあるわけで、いいところは褒めましょうみたいな、別にワーストを選ぶわけではない発想なので、ぜひともそんなものをお願いしたいと思っております。

もう一つそれに関連して、地元の愛着もあるので、先ほど例えで行政が選ぶと言いましたが、これはまちの人が選ぶでもいいわけで、それこそアンケートをとってシニア層が選ぶ名店とか、若い人が選ぶお店もそうですし、そういう仕組みをぜひとも行政が段取りをして、実行部隊は多分区民の方でいいと思うのです。それも1つかなと思います。

それと、今日資料の中で自治体別の観光の取組み状況で予算ベースで出ています。前も伺ったことあるのですが、品川区が何かしらでもっと上位に行ってほしいなど。品川区の取組みが評価されるという意味で。その反面、近隣には負けたくないなって。これは多分オール品川で気持ちが1つになれると思うのです。ライバルって大事で、隣の大田区なのかとか、わかりやすいライバルがあった方がいいぐらいに思っています。あるいは台東区にはかなわないとか、ではなくて、台東区に負けたくないぐらいな意気込み。そういう意味で課長の範疇で構わないので、この23区で選んだときライバルってどこの区だろうと。これはもう個人的な見解で構いませんから、例えばここがライバルだよと、あるいはここはすばらしいなと尊敬する自治体、あってもいいと思うのです、いいところは見習うと。それを最後に教えてください。

#### ○立川文化観光課長

個人的な意見になりますけれども、私は大田区が一番のライバルだと考えております。水辺のつながりもありますけれども。なぜかと言うと、観光資源として、大田区は羽田空港を抱えていますけれども、ただ、大田区の課長に聞いたら、「羽田空港を観光資源にするなんていう、そんなつまらないことは考えていない」といったニュアンスのことをお話いただいたのです。では何をやっているのかなと言うと、



まち場の資源と産業資源をすごく大事にしているのです。ですから、いわゆる建物だとかみんなが知っているものとかそういうことではなくて、「産業観光」という言葉があるみたいなのですけれども、その辺をかなり強調されていて、工場を見て歩くツアーをつくったり、それから、来年に勝海舟記念館をつくるということで、勝海舟を大田区の売りにしていく、大変わかりやすく、また、まち場に地に足がついているような観光を推進されているということで、私からすると都市型観光のある意味のお手本みたいなのところがあります。一方で、その辺は港区や中央区、渋谷区、新宿区、実際何もしなくても人が集まるような地域と品川区が張り合うようなことはしたくないと考えております。

#### ○渡辺委員

ありがとうございます。今まさにご答弁いただいたことに魅力を感じます。大田区に対しての敬意があって、ライバルという。今聞いた中でも具体的な工場めぐりだとか、視察と同じ趣旨ですよね。情報を得て刺激になって、こちらの品川区の施策のモチベーションが上がるという意味では、大田区に行ってみたくもなりますしね。そう言い合える課長同士の連携で、やはり連携ができていますからこそライバルと言えたり、そういうのを意識されるってとても大事なことだと改めて思いましたので、またそういう情報があつたらぜひお知らせいただけるといいなと思います。

#### ○本多委員長

ほかにいかがですか。

#### ○おくの委員

非常に素朴な疑問なのですが、もう既にこの区民委員会では議論済みのことを聞いてしまうかもしれないのですが、何で今この観光というものがこんなに、別に品川区だけではなくて各区こういうふうにプランを立ててやっていますよね。この一覧表があるから私もわかったのですが、私の出身は四国の愛媛県ですが、愛媛県みたいなのところだったら、それこそまち全体が、あるいは行政が乗り出して観光なり何なりで売り出さない限り人は来ないというのはわかるのです。私の素朴な感覚としては、東京は何の宣伝もしなくても、今になっても実際自然と人が集まってくるし、これだけいろいろな問題を抱えている都市でありながらも人は集まってくるようなところで、しかも、それこそ愛媛県がやるような観光とは少し違って、これだけ各区が一生懸命になってやっているのは、そもそもなぜなのかなど。しかも、これ見ていると、平成二十四、五年ごろから平成28年ごろにかけて各区ともいろいろな計画を出されている。そのころに東京全体で、商店街の皆さんなり、あるいは住民の皆さんからもっと観光をやろうよという動きでもあったのか、あるいはそういうのではなくて、国や都からこういうことをやりなさいということがあったのか、だからこういうふうに集中的に平成二十四、五年ごろから平成28年ごろにかけて各区がこういうプランをつくってやっているのか。全然勉強できていないですから、素朴な疑問として思ってしまったのですが、そこら辺を解説いただければありがたいなと。

#### ○立川文化観光課長

今、何点かご質問いただきました。まず、国や都からそういった働きかけやそういったことがあったかどうか、それは一切ございませんでした。区としましては、長期基本計画の中にぎわいの創出とかがありますので、そういった観点からやはり観光に力を入れていくと。いわゆる都市型観光についてお話ししますと、まず、品川区の目指す都市型観光、また、23区内のほとんどの区が目指す観光は、まず、住んでいる人を楽しんでもらうと。観光と言いますと、家を一步外に出て自分の余暇の時間をどう過ごすかと捉えておりますので、まず住んでいる方に身近な資源について、観光と捉える方もいるし、ただの日常風景と捉える方もいるかもしれないのですが、地域について再発見するような、そういった

イメージでまちを歩いてもらうだとか、お店に行ってもらうだとか、少ない自然環境ですがそういったものに触れていただくとか。区ではショートトリップと言っていますが、その辺も、いわゆる従来型の観光ではなくて日常生活の中にそういった観光を意識していこうといったことが平成20年前後から各区で広がってきたと捉えています。

#### ○おくの委員

そういう住民の要望なり、あるいは口に出して言う要望ではなくても、何となくそういう雰囲気平成20年ごろからできていったという、実態としてあったということですかね。

#### ○立川文化観光課長

一覧表にお示ししました、いわゆる各区の観光関係のビジョンやプランの作成年度、改訂して新しい年度のところもありますけれども、ざっと見ますと平成20年ごろから始まっていますので、そういったまち場のご意見であるとか、議会からの要望だとか、そういったことを経て各区はプランをつくってきたと認識しております。

#### ○おくの委員

そうすると、外から人を呼び込む観光というよりは、住んでいる人を楽しんでもらう、気持ちよくなってもらうというか、そういう趣旨の観光ということですか。

#### ○立川文化観光課長

今委員おっしゃった、まず住んでいる方、区民の方に楽しんでもらう、なおかつ区外からの来街者の方にも楽しんでもらう。それから、ここ数年外国人旅行者が増えておりますので、そういった方々にもまち場に出たときにまちの資源、日常生活などに触れてもらうことで楽しんでもらう、そういったところで都市型観光は展開されております。

#### ○おくの委員

例えば、品川区としては、今のご説明では、日常的なものが、住民のためのものもあるし、それから、外から来る方のため、両方兼ねているのだというお話ですけども、品川区としては目標というか、平成28年策定の都市型観光プランの目標としては、これだけ外側から呼び込みたいとか、持たれているわけですよね。品川区の観光プランの目標というか、あるいは観光をこうやって議論しようという目標・目的みたいなどころをご説明いただければと思います。

#### ○立川文化観光課長

平成28年に都市型観光プランをつくりまして、観光のコンセプト・目標についてももう一度ご説明いたします。それまでも観光に関するプランはありまして、平成28年に改訂をしています。コンセプト・目標としては、まず、これまでの取組みを継承していくことで、都市型観光の継続的な展開、また、まちづくりの一環としての観光振興、こちらは官民連携による観光まちづくりの推進、それから、新たな時代への適切な対応ということで、新たな顧客の獲得、五輪レガシーの活用、また、繰り返し訪れて楽しい観光都市づくりでございます。具体的な数値目標は掲げておりません。

#### ○おくの委員

平成28年からまだ2年ですが、効果はこれぐらい上がったとか、こういう流れになってきたよとかいうのはあるのでしょうか、ないならないで仕方がないと思うのですが、まだ2年たっていないわけですから。

#### ○立川文化観光課長

実際に先ほどもお話ししましたとおり、「繰り返し訪れて楽しいまち しながわ」というコンセプトで

すので、ターゲットとしては、区民、区内在勤・在学、近隣区民、沿線市民、また、ビジネス客、これは国内外から東京への出張者。それから、外国人観光客、シニア世代、こういった方々が具体的なターゲット、マーケットの考え方です。実際に商店街などで聞きますと、やはり日本の商店街自体が物珍しいということで訪れていただける方は増えています。

#### ○本多委員長

よろしいですか。

#### ○大倉委員

委員長から今日の視察も踏まえてということだったので、何度も訪れるということでは、お話を聞いていて、いろいろなコンテンツが充実している品川区みたいなものがあるといいのかなと。先ほど渡辺委員のおっしゃっていたランキングを取り入れてみるのもおもしろいなと思って聞いていました。ランキングなどで区内のいろいろな、例えば先ほどの大井競馬場であったり、イルミネーションはここがすごいですよという宣伝がうまくできると、回遊性という面でも上がってくるのかなと思いました。あと、回遊性を上げていくために、例えば、大井競馬場のイルミネーション、入場料1,800円は少し高いというお話もあったと思うのですが、例えば、そこで終わりではなくて、水族館から大井競馬場に行くとか、大井競馬場終わった後に商店街に行くとか楽しめるみたいな、割引とか連携とか、そういうのがうまくできないかなと非常に感じたのですが、そういうよううまく回遊していく、商店街も絡めながらみたいな、そういう取組み・施策がいいなとお話を聞きながら非常に思ったのですが、それについていかがでしょうか。

#### ○立川文化観光課長

イルミネーションと、ほかの観光関連資源をつなぎ合わせる、また、鉄道事業者と連携するとか、それから、旅行代理店と連携する、そういったさまざまな事業者、関係者の方が1つの資源を磨き上げるところで力を出し合っていくということが一番重要なことだと思っています。そのつなぎ役として行政としてできることがあると思いますので、その辺については検討していきます。

#### ○大倉委員

そのためにも、やはり先ほど言った分析とか調査とか、チャレンジしていくところでもしっかりとそのチャレンジがどうだったかということも精査しながら進めていくといいと思うので、ぜひよろしくお願ひします。

#### ○藤原委員

まず、そもそも論をお伺いするのですが、この資料を今回つくったと思うのですが、1番が千代田区、2番が中央区、3番が港区となっていますけれども、この順番の根拠は何ですか。

#### ○立川文化観光課長

こちらは行政順ですので、いわゆる市区町村の整理上の順番です。品川区は9番ということで昔から決まっています、背番号みたいなものです。あと、冒頭でお話ししていなかったのですが、一番下にあるように、本表は各区ホームページで公表されている平成29年度予算の概要等から主なものを例示したものでして、観光政策はさまざまな課が予算を持っている可能性があります。今回出した金額については、各区の観光関係施策の全体や総額をあらわすものではないこととお断りさせていただきます。

#### ○藤原委員

ということは、品川区は9番目なのですね。今日、直接関係はないけれども、よくわかりました。予算とかそういうのは関係なくて、23区の中の背番号が9と覚えていればいいのですね。千代田区は1

なのでですね。2番が中央区。品川区は背番号は9なのだ。今日それ初めて知りました、品川区は背番号が9だと。それで、続けてお伺いしますけれども、例えば、個人的な考えでいいのですけれども、いわゆるこの品川区の文化観光課長として答えていただくと、必ず品川区のことが出てしまうと思うのですけれども、今日この都市型観光でほかの区が出ているのであえてお伺いしますが、例えば、課長のご出身はどこかわからないのですけれども、友人なりご親戚の方なりが地方から来たときに、東京観光をしたいと言ったときに、ただそんな日にちがないから何十カ所も行けないといったときに、どこに連れて行かれますか。

#### ○立川文化観光課長

常々意識しております。まず区内でお話ししますと、区内においては、八潮にある新幹線の基地です。それから、広町の山手線の基地、区外におきましては、近いところで東京タワーのふもとに行ってみせてもらいます。お金を払って上までは行かないと。

#### ○藤原委員

伺ってよかったです、この質問。新幹線が出ると思わなかったのですけれども、ドクターイエローもとまっているのですよね。東京タワーのふもとって、それも出ると思わなかったの。これだけわかっている担当課長でしたら、もう安心をしています。

最後に1つだけ質問しますが、品川区においてのいろいろな観光という意味では、各委員の方個人もあると思いますし、理事者の方たちもいろいろなお考えがあると思うのですけれども。私は生まれも大井であり、大井で育っていますから、いつも思うのは、立会川周辺では坂本龍馬に力を入れてやられています、私たちとか大井という意味においては、伊藤博文初代内閣総理大臣という方が、西大井にお墓もありますし、もっと言うなら、私が大井第一小学校に通っているときに、いつも伊藤さんの、よく調べると伊藤さん自身が住んでいたわけではないという説もありますし、伊藤さんの何番目かの奥さんが住んでいたところだとか、その跡地がニコンの保養所みたいな形になっていた。私が子どものときはまだ建物があつたのです。そして、それが明治村だかどこかに行ったとか、地元の方の方に行ってしまったという話もあるし。今はマンションが建ってしまっています。

話を戻しますが、と言いつつ、歴史館の特別展等においても過去やっていたら申しわけないのですけれども、伊藤初代総理大臣のことはあまりやられていないような、今回も明治維新という形で特別展をやられていたけれども、そんなに伊藤さんについてはあまりやられていないと思うのですけれども、大井の人間としてはこれからまた都市型観光の1つとして盛り上げていただきたいと思いますのですけれども、個人的な考えなのですけれども、その辺については今後も含めていかがでしょうか。

#### ○立川文化観光課長

過去に取り上げたかどうかはいま確認できないのですけれども、全国的に有名な方ですので、歴史館等と連携して、どういうふうに伊藤博文公を品川の観光資源としてアピールできるかは研究していく必要があると思います。

#### ○藤原委員

伊藤博文公は、史実として確実にいらっしゃったわけですから、いたのだらうではなくて、いらしたわけですから、その辺はよろしく願いいたします。

それと最後に、私思うのですけれども、都市型観光なので、他自治体とあまり競争意識を持つ必要はないと思っています。それが日本独特の考え方であると思っていますし。実は江戸時代は「競争」という感覚は江戸の人にはなかったそうです。ただ、外来語が、いわゆる英語などが来たときに、福沢諭

吉先生が「競争」と訳してしまった、そこから「競争」というのが明治時代に出たのですけれども、それまで日本の感覚は、「切磋琢磨」であって「競争」ではなかった。「切磋琢磨」という感覚が日本人の基本だったわけです。ですから、都市型観光ですから、広い意味で点と点が線になって、線と線が面になっていく、それと交通網、23区そうだと思うのですけれども、品川区も人口が増えていますよね。これは観光も大事ですけれども、一番は交通網だと思っています。品川って、こんないい地域ないではないですか。品川駅の前は港区ですけれども、品川を拠点に考えると、羽田空港にも15分で行けて、今度リニアが来て、すごいですよね。JR東海の新幹線もあって。ですから、品川駅という意味ではなくて、交通網も含めた、駅も含めた都市型観光を進めていただければ幸いです、その辺はよろしく願いいたします。

**○本多委員長**

ほかに。

**○田中委員**

今年のいつだかにも伺っているのですが、都市型観光に力を入れている区を幾つか以前教えていただいたと思うのですけれども、それをまた教えてください。

**○立川文化観光課長**

そのとおりの答えができないかもしれないのですけれども、近隣では、港区、大田区、その辺は間違いないです。

**○田中委員**

ありがとうございます。それで、今回の資料なのですけれども、出していただいてありがたいのですけれども、ここに各区の人口や面積、あとは説明にあったような区よりの観光推進プランの目的を書いてもらったり、あと、その区の目玉とか、その区を代表するものがここに書かれていたら、もっといい資料になっていたと感じました。それで、都市型観光プランを読んでも、品川区の推進する都市型観光は、商店街、水辺や公園、地域の祭礼というような、暮らしや生活文化に根ざした資源を通して、来訪者が区民と触れ合い交流することで、繰り返し訪れて楽しい観光都市を目指すものと書いてあります。でも、先ほどあったように、品川区としては、まず住民に地域を楽しんでもらうためにというお話をされていたと思うのですけれども、どちらなのかを聞きたいです。

**○立川文化観光課長**

今お話あったのは、都市型観光プランの区長の挨拶文の一節でございます。都市型観光の考え方としては、その挨拶文にあるとおり、来街者の方に満足していただきたいということがあるのですけれども、ターゲットとしましては、先ほどお話ししたとおり、区民、区内在勤・在学者、または近隣区民、沿線市民、いわゆる泊まりがけでなく来られる方が圧倒的に多いですので、まずその辺をターゲットとして考える必要があると思います。それから、外国人観光客やビジネス客など、外から来ていただける方もいらっしゃいますので、そういった方にも楽しんでいただきたいという思いで挨拶文を書いたと理解しております。

**○田中委員**

ありがとうございます。ターゲットとしての区民や品川区にかかわる方たちということだったのですけれども、それは本当にいいかと、住民のことを本当に、言い方はあれですけれども、住民を放っておかれているのではないのですけれども、来訪者の方をずっとメインで観光プランが今まで事業としてあった気が、住民が置いていかれているような、何となくそんな気がしていたので、その住人の方たちがまず

楽しめるような視点は忘れずにいてほしいです。先ほどあったように、新幹線の基地だったり、中央公園なども電車が通る公園だということで子どもたちにも大人気です。そういうものもあるので、イベントだけを盛り上げていくとかではなくて、ここにも書かれているように、生活文化に根ざした資源という、今ある資源を活用してほしいというのを強く要望したいです。何かあったら一言いただければと思います。

#### ○立川文化観光課長

ただいまご指摘のありました、いわゆる生活文化、身近な資源、こちらは大変大切だと。同時に新たな観光資源として区の目玉になるようなものも必要かなと、総合的に施策については推進していきたいと考えております。

#### ○本多委員長

では、私から1点だけ質問させてください。今出ていました質疑に関連して、大森貝塚の件なのですが、もう何年も前から議会で、モースが汽車の中から発見した場所は、本来は今ある品川区が掲げている貝塚の場所だったにもかかわらず、その辺だということでお隣の大田区が「大森貝塚」と先に掲げられてしまって、今実際には東京には2つの大森貝塚がありますが、本当はモースが見つけたのは品川区内の品川区が持っている貝塚公園なのですが、そこを品川区としても「大井貝塚」と名称を変えていくべきだという、何年も前から議会で取り上げられていましたし、大森駅には縄文土器のモニュメントや絵があったりするのですが、この間、決算特別委員会でも総括で質疑が出ていた、「縄文」という言葉は品川が発祥だという説もあったり、大森貝塚を大井貝塚という名称を変えるように働きかけているという機運が今までもありましたが、何か動きとかあるのか。もしないならこれから働きかけしていくのか、その辺だけ簡潔に教えてください。

#### ○安藤文化スポーツ振興部長

今の「大森貝塚」「大井貝塚」という名称自体について、今実際に動きがあるかと言うと、特にありません。しかし、これは歴史的にも証明されていますけれども、たしか明治10年にモースが見つけたところは、特定した住所地とか番地はかつてはなくて、あのあたりで見つけたというような話なのです。それで実際に発掘作業をしたときには、今の品川区にある大森貝塚公園がその場所で、私どもの方が先にそこに大森貝塚という名称を使った。また後日、すぐ隣にも碑ができていますけれども、あれは大森貝塚ではなくて大森貝塚という碑が建っています。ですから、あれは記念の碑なので、ここらにありましたという碑が両方ともつけてあるということなのですけれども、実際に品川区ではこれまでに3度ほど調査をやって、発掘された場所もここであったとか、学術関係においては、今の大森貝塚公園が本当にそこにあった場所だというのが歴史的に証明されているところです。これについては、歴史館の特別展で大森貝塚をやりましたところも、図録も正確に載っていますし、それは事実だと思います。それはそうとして、今お話があった、新たに大井貝塚にしていくとかいう動きは、今後実際に名称としてどれが本当に正しいのかという学術的なこともあろうと思いますので、今後研究されていくのではないかと感じています。

#### ○本多委員長

ありがとうございます。よろしいですか。

#### ○藤原委員

大井という地名は井戸から来ているということで載っていて、違うかもしれないですけども、逆に大森という地名は、どこから、どういう語源とか来ているのか、わかれば。何で大森貝塚なのとい

う思いがあつて。委員長、すみません、話を挟んでしましますが、私も実は特別委員会するとき、まだ当時部長が課長するときでしたけれども、答弁して下さって、京浜東北線に乗っていたら大森貝塚があつて、ああこれ小学校のときよく来たと思つて、そこから10秒だか5秒ぐらい行くとまた石碑が建っているのですね。だから、どちらが本物なのかと言つたときに、もっと力強い答弁をして下さった印象があるもので。改めて品川区が元祖でいいのですよね。それももっと強く言つていただきたいのと。何で大森という名前がついてしまっているのというのも、まさに委員長と一緒に考えなので。

**○安藤文化スポーツ振興部長**

藤原委員のご質問の中でも、貝塚と貝塚の話ですけれども、かつてお答えしましたとおり、品川区の大森貝塚が正解ではないですけれども、正しい場所です。大森の由来については知識がありませんので、今ここで答えることは難しいです。

**○本多委員長**

ほかによろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

**○本多委員長**

ほかにはないので、以上で本日の所管事務調査を終了いたします。

---

3 その他

(1) 議会閉会中継続審査調査事項について

**○本多委員長**

次に、予定表3のその他を議題に供します。

(1)議会閉会中継続審査調査事項についてですが、お手元の申出書案のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**○本多委員長**

それでは、この案のとおり、申し出いたします。

---

(2) 委員長報告について

**○本多委員長**

次に、(2)委員長報告についてを議題に供します。

昨日の議案審査の委員長報告については、正副委員長にご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

**○本多委員長**

ありがとうございます。それでは、正副でまとめさせていただきます。

---

(3) その他について

**○本多委員長**

次に、(3)その他を議題に供します。

その他で何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○本多委員長

ないようですので、以上でその他を終了いたします。

以上で、本日の予定は全て終了いたしました。

これをもちまして、区民委員会を閉会いたします。

○午後2時09分閉会